

令和7年度 第1回 学校運営協議会

令和7年4月21日（月）15：15～

積志中学校 会議室

司会：松井

- 1 会長あいさつ
- 2 校長あいさつ
- 3 新規委員任命書交付
委員 岩井 正次
委員 鈴木 達志
委員 市川 和廣
- 4 教育委員会あいさつ

- 5 参加者自己紹介
名簿（敬称略）

会長	岩井 正次（新規）	副会長	北 一樹
委員	上野 由紀夫（学校支援コーディネーター）	委員	岡本 知之
委員	林 和法	委員	高林 祐子
委員	内山 多紀子	委員	鈴木 達志（新規）
委員	市川 和廣（新規）		
オブザーバー	三輪 清	オブザーバー	中村 佐佳恵

学校職員

校長	影山 ちか	教頭	山村 隆信
CS担当	松井 麻貴	CSディレクター	鈴木 佳奈子

- 6 学校運営協議会規則の確認
- 7 議長選出
- 8 前回会議録、令和6年度協議会自己評価の確認

議長：

- 9 熟議
 - (1) 今年度の学校運営の基本方針について
 - (2) 令和7年度学校運営協議会の取組について
 - (3) 夢育やらまいかCS加算分の意見書について（教頭）
 - (4) 積志中いじめ防止基本方針（岩永）
 - (5) その他

- 10 連絡事項

・今年度の学校運営協議会の予定

- | | | | | |
|-----|---|------|----------|--------|
| 第1回 | ： | 令和7年 | 4月21日（月） | 15：15～ |
| 第2回 | ： | 令和7年 | 6月6日（金） | 15：15～ |
| 第3回 | ： | 令和7年 | 9月1日（月） | 15：15～ |
| 第4回 | ： | 令和8年 | 2月16日（月） | 15：15～ |

1 校区の目指す子供の姿

- ・場に応じた挨拶ができる子
- ・多くの人との人間関係を深めていくことができる子
- ・家庭と地域に感謝し夢に向かって努力する子

2 校 訓

自主・協力・責任

本校は、明るく素直な生徒が多く、学校行事や部活動に一生懸命取り組む。また、学習意欲も高く、前向きに取り組むことができる生徒も多い。しかし、自分に自信が持てず、自分の意見を積極的に伝えることができなかつたり、自主的に行動したりすることが苦手な生徒も少なくない。校訓である「自主・協力・責任」は本校生徒にぴったりの言葉である。生徒の実態から校訓に込められた思いを、生徒、職員が自分事として捉えられるよう意識させていきたい。

- 「自主」とは、他からの指示や干渉を受けず、自ら進んで決定して実行すること。具体的には自分のやるべきことを自分で決めたり、自分の考えや判断に基づいて行動したりすることを指す。
- 「協力」とは、同じ目的のために力を合わせる。心を合わせて働くこと。
- 「責任」とは、自分でしたことから起こる損失や制裁を自分で引き受けること。

生徒の自主性を高めるために、自分の目標ややりたいことを明確し、失敗を恐れずに挑戦させていきたい。自主性のある人は、積極的で行動力があり、問題解決能力が高い。自らの判断で行動を選択するため、やり遂げるまでの責任感を保つことができる。一人一人の生徒が仲間とのかかわり、互いに協力しながら、自分の行動や選択に責任を持つことで、よりよい学校生活が送れるように期待したい。

3 学校教育目標

志を持ち 自ら学び高め合う生徒の育成

「志」とは、自分の心に決めた目的や目標、相手のためを思う気持ち、厚意を意味する。志を積み重ねることが、積志中のイメージキャラクター「つみっしえる」の由来である。「志」を「積む」ということは、将来のなりたい自分になるために、まずはできそうなことから始め、小さな成功を積み重ねていくことである。小さな成功の積み重ねが自信につながり、次の成功への励みとなる。「志」を「積み」、「小さな成功」を「積み重ね」、「自ら学び」続けて自身を「高めて」いく姿勢を身に付けてもらいたい。そして、自分のやりがいや夢中になって取り組んでいることが、自分の喜びだけでなく、周りの人の喜びへとつながっていくことが感じられるような体験をしてほしい。

4 目指す生徒像

- ・自ら進んで行動できる生徒
- ・物事を前向きに捉え、挑戦し続ける生徒
- ・自分のため、仲間のために尽くすことができる生徒

生徒は将来、多くの選択・決断をする場面に出会うこととなる。大事なことは自分で選んだ選択を後悔しないこと、選んだことに自信をもって行動することである。たとえ上手くいかなかったとしても、ポジティブな考えで前に進めば必ず次につながる。失敗してあきらめて他の道へ進むのか、あきらめず努力し続けるか…、このような悩みを無駄にせず、あきらめて違う道へ進んだとしても常に前に進もうとする推進力がある人間に育ってほしい。頑張った先には楽しい未来があること、挑戦や努力は決して無駄にならないことを体感させ、ポジティブな行動力を持つ人になってほしい。また、挑戦や努力には仲間の存在が大切なこと、仲間と協力して物事に取り組む喜びは貴重であることを感じさせたい。

5 学校教育目標達成のための基盤・重点

(1) 学びの充実

学校生活の中心は、授業である。どの教科の授業でも「主体的・対話的で深い学び」を意識しつつ、生徒が「分かった」と自覚できる授業、生徒が積極的に参加したくなる授業を展開してほしい。そのために、教材研究を怠らず、生徒の好奇心を刺激し、意欲を喚起する授業を進めていきたい。昨年度のICT活用授業実践の報告を生かしながら、今年度はさらに効果的な活用を職員同士で共有し授業へ取り入れていきたい。また、授業の中で生徒同士が関わりあう場面を意図的に用意し、対話的な学びを展開していきたい。

さらに、生徒一人一人が、1時間の授業に全力で取り組めるよう、個に応じたスモールステップを準備し、教えるべきは徹底的に教える中で、自己肯定感が醸成できる授業を行いたい。自分の成長が実感できれば、授業が楽しいものになり、意欲も湧いてくる。そのためにも生徒が学ぶべき内容自体を価値づけることはもちろん、学びに向かう姿勢や意欲、身につけた成果について適切に価値づけ、生徒一人一人にとって自分の成長が実感できるような評価・評定へとつなげていきたい。

生徒は、「きまり」を守ることは当たり前、教師は、「当たり前」にできていることが素晴らしい」と、できたことを褒め、「学習のきまり」を徹底させたい。特に授業前後のあいさつ、話を聞く姿勢、発表する態度等、基本的な学習態度を身につけさせたい。授業をコントロールするのは、教師である。一人の発言をクラス全員で共有できる雰囲気づくりは支持的風土のある学級づくりへとつながる。

(2) 縦割り活動の充実

行事の中での生徒同士、生徒と職員の間は、生徒の記憶に強く残る。人と人との関わりの中でしか学べない人間関係上のスキルや多様性への理解、協力や協

働の価値などを体感させていきたい。また、一人一人の生徒が当事者意識を持って活躍できるよう、それぞれの行事に生徒の思いや願いを取り込み、「生徒が前面に出た活動」としていきたい。やらされている感を払拭し、生徒が生き生きと躍動する学校・学年行事が展開されることを期待している。

人は楽しいことを考えたり、想像したりするとストレスが減って前向きになり、意欲が生まれる。生徒も職員もワクワクするような活動、学校が明るく楽しくなる活動を生徒、職員がアイデアと工夫を凝らし、仲間とかかわりながら元気に活動できる学校行事を計画していきたい。

さらに、学校運営協議会を中心としたコミュニティースクールの活動の中で、地域の人材と関わる活動を工夫し、生徒の関わりの輪を広げ、生徒が自分自身の価値に気が付き、自己肯定感や自己有用感を高めることができる機会を多様に用意していきたい。

6 学校教育目標達成を目指す中で意識したい取組

(1) 自己有用感を高める取組

自己有用感とは他者からの評価が元となってできあがる自尊感情で、他者評価によって生じることから自己肯定感より上位の自尊感情といえる。

本校生徒の自己有用感とは、それほど高くないのではないかと感じている。授業の中でも、縦割り活動の中でも、生徒同士、生徒と職員の関わりの中で、「自己有用感の醸成」につながる工夫を凝らしていきたい。活動そのものを計画する段階で「どのように生徒同士を関わらせれば、自己有用感の育ちに有効だろうか」、「今度の活動で、職員はどの段階でどのように関われば生徒の自己有用感が増すのか」というように考えたい。また、活動の振り返りにおいても生徒一人一人の自己有用感がどのように補強されたかという視点を盛り込んで活動を評価していきたい。

生徒にとっての学校職員は、最も身近で影響力のある第三者である。責任ある大人として、日頃の学校生活を送る中でも、生徒の自己有用感が高まる言葉かけを心がけていてもらいたい。

(2) ポジティブ思考を身に付けるための取組

現代の子供たちは失敗を恐れてチャレンジしないと言われている。本校でも自分から進んで挑戦しようというよりは、誰かに背中を押してもらって挑戦したり、失敗しないように人より目立たないようにしたりと、消極的な生徒も少なくない。コロナ禍で日常生活、学校生活に行動制限がかかり、人とかわることや何かに挑戦したり、一緒に活動したりする機会が奪われたことが影響しているのではないか。

コロナ禍では今までの常識では対応できれない状況が次々と生まれたが、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の時代といわれる未来を生きる生徒たちは、学校で学んだ事柄だけでは通用しない時代を生きていくことになるであろう。そのため、知識を知恵に…、体験を経験に…、正解ではなく納得解を…、課題対応能力の育成を…等、色々なことが言われているが、「物事をポジティブに考える姿勢」を身に

付けることは、その大前提として必須と考えられる。

「やめる理由を考えるのではなく、やれることを考えよう」、「結果がでなかったとしても成果は得られる」、「目標が達成できなくても目的には近づける」というように常に前を向いて思考できる習慣を身に付けさせたい。中学校時代の失敗やうまくいかなかった経験が将来につながるような指導・支援の言葉かけを意識して行っていきたい。

成功体験をさせて自信をつけさせるといえるが、たくさん失敗すること、99回失敗して1回成功したらそれはとても大きな自信へとつながる。その1回を一緒に喜びあえる生徒集団、職員集団でありたい。

(3) 安全・安心で信頼される学校環境の構築

学校は、安全・安心で信頼される場所でなければならない。そのためには、物質的な環境整備が必要なことは勿論だが、生徒同士、生徒と職員の関わりといった人的環境がきわめて重要である。学校が生徒にとって「居心地のよい場所」、「自分の存在を認めてくれる場所」、「明るく元気に活動できる場所」であったとしたならば、保護者は学校に安心感を持ち、信頼してくれる。

自己有用感を高めさせたり、自分らしさを見つけさせたりする関わりの中で、笑顔が溢れ、「ありがとう」という感謝の言葉が飛び交えば、生徒の思考は自然とポジティブとなり、生徒が安心して通える学校、地域や保護者に信頼される学校になっていくはずである。

そのためには、何事もない日常の学校生活における学校職員の立ち居振る舞いが大変重要になってくる。生徒指導や健康指導、防災対応等のマニュアル整備など、安全・安心対策として準備しておくべきものを整えるのは当然だが、それにもまして、「温かな声かけ」、「対話的で生徒自身に考えさせる指導」、「親身な対応」、を本校職員集団のモットーとしたい。

信用失墜につながる不適切な言動や、一般に考えて「不適切にもほどがある」と思われるような指導のない温かで爽やかな学校態勢を築いていきたい。「チーム積志」は一人一人が明るく元気よく、生徒や職員、保護者、地域ととことんかかわっていく職員集団でありたい。

参 考

第4次教育総合計画

- ・主体性…物事を自分事として捉え、目の前の課題の解決や描く未来の実現に向けて粘り強く取り組む
- ・多様性・包摂性…一人一人の自分らしさを認め、互いを尊重しあいながら、誰もが活躍できる環境を実現していく
- ・信頼・協働…それぞれの立場の人が人や組織に信頼を置き、協働したり、相互に作用したりして、よりよい関係性を構築していく



校訓

自主

協力

責任

学校スローガン



学校教育目標

志を持ち自ら学び高め合う生徒の育成

目指す生徒像

自ら進んで行動できる生徒

物事を前向きに捉え挑戦し続ける生徒

自分のため仲間のために尽くすことができる生徒

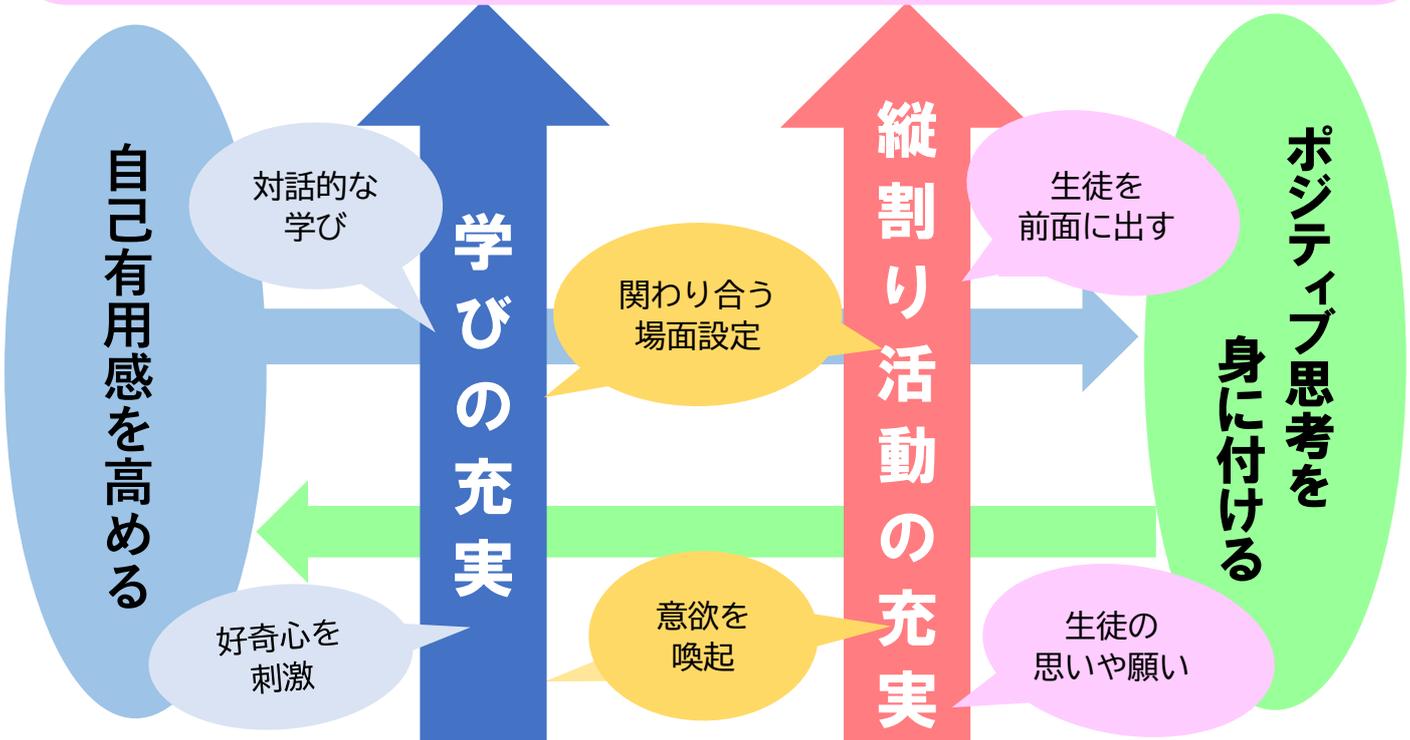


中学校区目指す子供の姿
学校や地域で場に応じた
挨拶ができる子/より多く
の人との人間関係を深め
ていくことができる子/
家庭と地域に感謝し夢に
向かって努力する子

校訓 自主・責任・協力

学校教育目標 志を持ち 自ら学び高め合う生徒の育成

- ### 目指す生徒像
- ・自ら進んで行動できる生徒
 - ・物事を前向きに捉え、挑戦し続ける生徒
 - ・自分のため、仲間のために尽くすことができる生徒
- 



安心・安全で信頼される学校環境

居心地のよい場所・自分の存在を認めてくれる場所・明るく活動できる場所

温かな声かけ・対話的で生徒自身に考えさせる指導・親身な対応

PTA ・ 学校運営協議会 ・ 青少年健全育成会 ・ 校区自治会

令和7年度積志中コミュニティスクール活動計画（案）

令和7年4月21日

1 授業に地域人材の導入（新規）

（1）目的

学校の生命線は日々の授業である。その授業を少しでも充実させるために必要な人材（ボランティア）を導入したい。



（2）計画

○校内で効率的に授業を行うために支援者（地域ボランティア）が必要な教科・領域について4月中に調査する。

（裁縫＜技術・家庭＞書道＜国語＞など）

○必要な教科・領域等があれば、早期に自治会回覧等（実施内容、時期）で募集する。（可能であれば、今年度中途でも実施したい）

○希望があった場合は、連絡を取り事前打ち合わせを行い、実施する。

*必要な場合は、公民館等の「教室」等への依頼も視野に入れたい。

2 制服・ジャージ・法被等の寄贈計画（新規・継続＜3年目＞）

（1）目的

体育大会（10月31日実施予定）で披露予定の「積志中ソーラン」で衣装として使用する法被に加え、必要としない制服・ジャージを卒業生家庭から寄贈していただきたい。転入生等からニーズがあった場合は安価（？）で提供できるように校内でストックしたい。



（2）計画

○法被については、現在多く寄贈されたものがあり、今年度の実施については、学校と相談し必要であれば、実施する。（自治会回覧）

○制服、ジャージはなかなか高価であるため、転入生や家庭事情で購入に負担を感じる家庭も多い。その実態に対応するため安価で必要な家庭に提供できるように少しでも多く学校に保管する。

今年度より卒業時期に卒業生（保護者）に向け、文書等で発信する。

3 地域クラブへの移行に向けて

（1）これまでの経緯

○令和5、6年度に地域・保護者に向けて部活動指導者を募集（自治会回覧）し、実態を把握したところ17名の登録者があった。

○令和7年1月に「地域部活動指導者説明会」を実施した。（7名参加、浜松市の地域クラブ移行について今後の展望等について説明）

（2）計画

○市の動向（令和8年9月の移行予定）を見ながら、部活動顧問等の意向を確認して進めていく。（募集の回覧実施も含めて）

4 地域防災と中学生との関わり

(1) 目的

- 災害等があったときには、地元中学生が地域の一員として大きな戦力として活躍してほしい。また、地域の一員としての自覚を強く持ち、将来的には地域に貢献できる人材を育成したい。

(2) 計画

- 学校の防災訓練予定
 - ・ 4月10日(木) 防災訓練
 - ・ 6月18日(水) 防災講話
 - ・ 9月5日(金) 防災学習



◎通学区別に分かれ、各自治会代表の方と顔合わせ、話し合いの場を設ける。

(例)・通学区の危険個所の確認

- ・ 12月の地域防災で地域の方に望むこと、地域の方から中学生の参加に対して望むこと等の意見交換

*少しでも12月に実施される地域防災への意識を高めたい。

- ・ 1月30日(金) 防災講話

5 夏休み学習ボランティア(3年目)

(1) 目的

基礎学力の定着と長期休業中の学習習慣育成のため、夏休み(7月)に1、2年生を対象に地域ボランティアを支援員として招いた学習会を実施する。



(2) 計画

○昨年度の実施日数は7日間であったが、反省を踏まえ、4日程度としたい。実施時間については、2~3時間程度としたい。

*実施日、実施回数等については、学校と相談していく。

○参加生徒の募集については、学校にお願いするが、支援ボランティアについては、自治会の回覧また保護者、浜松日体高校、浜松医大等へ依頼する。

○学習内容については、「夏休みの友」を中心とする。

○昨年と同様、ボランティア支援員については、事前に説明会を設けたほうがよいか?

*運営については、できる限りボランティアと学校運営協会委員で行い、学校職員に負担がかからないようにしたい。

- ・ 昨年度マニュアル作成

6 その他

○積志小学校、有玉小学校とは適宜連絡調整を図っていきたい。

○「CSだより」の発行

○生徒対象の講話等の講師の連絡調整等